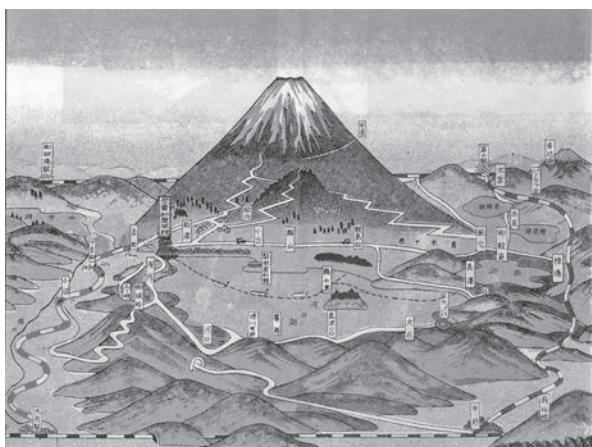


大正・昭和はじめの地図の旅 ～安室吉弥家資料より(続)

本誌の第五一号では、当室で所蔵する安室吉弥家資料より地図に該当する資料を八点選出し紹介した。本頁ではその続編として、やはり目にすることが少ないとと思われる、大正・昭和初期の稀少な地図を九点紹介したいと思う。ただし、同資料群には横浜市の地図は存外に少なく、今回取り上げるのは神奈川県および県内の他都市、そして県外の各地を対象とした地図となる。



【図1】「富士登山五湖遊覧御案内」

1930(昭和5)年頃、登貴和屋旅館発行【資料番号1734「観光案内3富士山」】より】／山梨県の富士山とその麓に広がる富士五湖が描かれている。五湖の一つである河口湖の畔(現・富士河口湖町)にあった旅館が発行した観光案内。

（岡田直）
ともあれ、それでは前回に引き続き地図の旅をお楽しみいただきたい。ただし、やはり紙面の大きさと色数に制約があるため、詳細の判読が困難な箇所があることはご容赦願いたい。

それらは民間の地図会社や鉄道会社、もしくは自治体などで作成された、都市図や府県図、観光案内(鳥瞰図)の類である。官製の地形図等とは異なり、国土を網羅して国内の全ての地域を対象に作成されたものではない。特に民間で作成される地図の対象は、地図の需要が大きく、採算の取れるエリアに

一般的にそれらは商品として成立するべく、あるいは多くの人を集められるべく、官製地形図にない特色をいくつも備えている。例えば、全面が多色刷りで、地形や土地利用によって、あるいは地形図よりも詳しく表示されていて、地名や行政の境界線はもちろん、航路やバス路線、会社や商店の名称などまでが示されている。逆に人や建物、乗り物の姿など、目には見えるが、地形図に表現されない事物が、特に鳥瞰図などにおいてわかりやすく描かれている場合も多い。そして、図の欄外や裏面には、町名や通り名、公共施設、名所旧跡などの一覧を掲載している。欄外や裏面には、町名や通り名、公共施設、名所旧跡などにおいてわかりやすく描かれていたり、索引符号で検索ができるようになっているなど、さまざまな工夫が施されているのである。

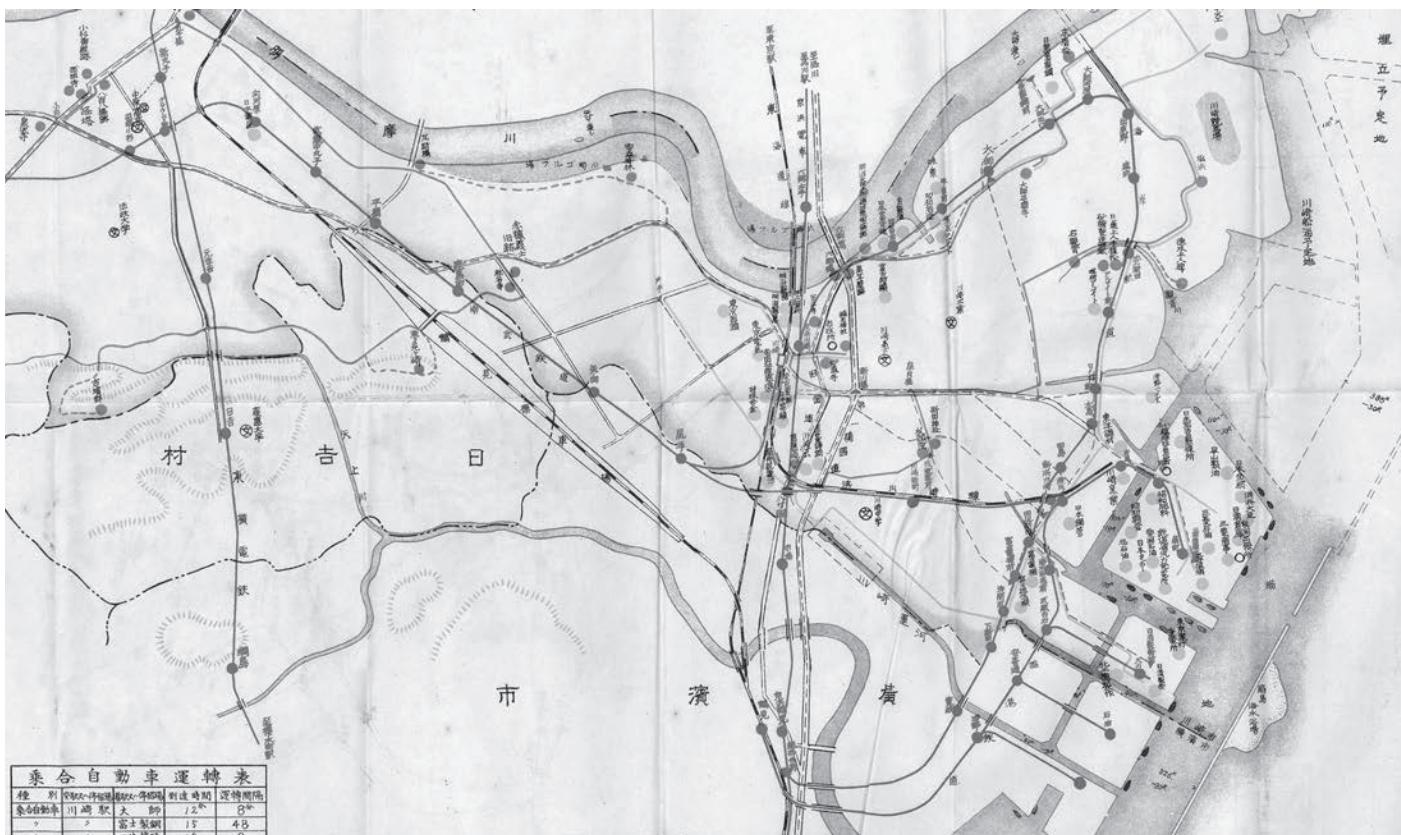
限られる。その条件を最も満たすのが、規模の大きな都市や、府県の全体、有名な観光地などである。鉄道会社や自治体の場合も、販売を目的に作成されたものではないが、少なくとも特定の地域や沿線の活性化を目的にしたもので、その対象は限られている。また、図の様式は平面図形式のものもあれば、鳥瞰図の形式のものもある。

一般的にそれらは商品として成立するべく、官製地形図にない特色をいくつも備えている。例えば、全面が多色刷りで、地形や土地利用によって、あるいは地形図よりも詳しく表示されていて、地名や行政の境界線はもちろん、航路やバス路線、会社や商店の名称などまでが示されている。逆に人や建物、乗り物の姿など、目には見えるが、地形図に表現されない事物が、特に鳥瞰図などにおいてわかりやすく描かれていたり、索引符号で検索ができるようになっているなど、さまざまな工夫が施されているのである。



【図2】「神奈川県観光地図」(部分)

1954(昭和29)年【資料番号266-9「観光地図」(神奈川県、神奈川県観光協会)挿図】／横浜市を含む神奈川県東部の部分。●(原図は赤色)に白抜き文字で「三溪園」や「金沢文庫」「総持寺」などの観光地が示され、「シーマイ」「マフラー」など商品や「保土谷球場」など施設がイラストに描かれている。



【図3】「川崎市案内図」（部分）

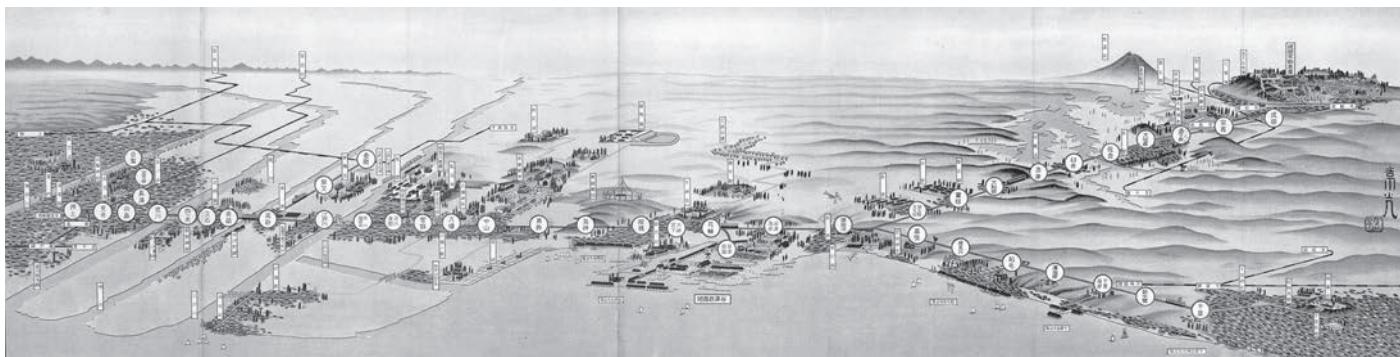
1936(昭和11)年【資料番号266-6「港湾工都かはさき」(川崎市役所)付図】/川崎市は1933(昭和8)年に橘樹郡中原町を編入し、現在の川崎・幸・中原区の範囲が市域となった。この図には多摩川の河口と臨海部の埋立地に集まる工場が、「日本鋼管」や「味ノ素」「富士紡績」など、一つ一つ詳しく記されている。



【図4】「神奈川県全図」

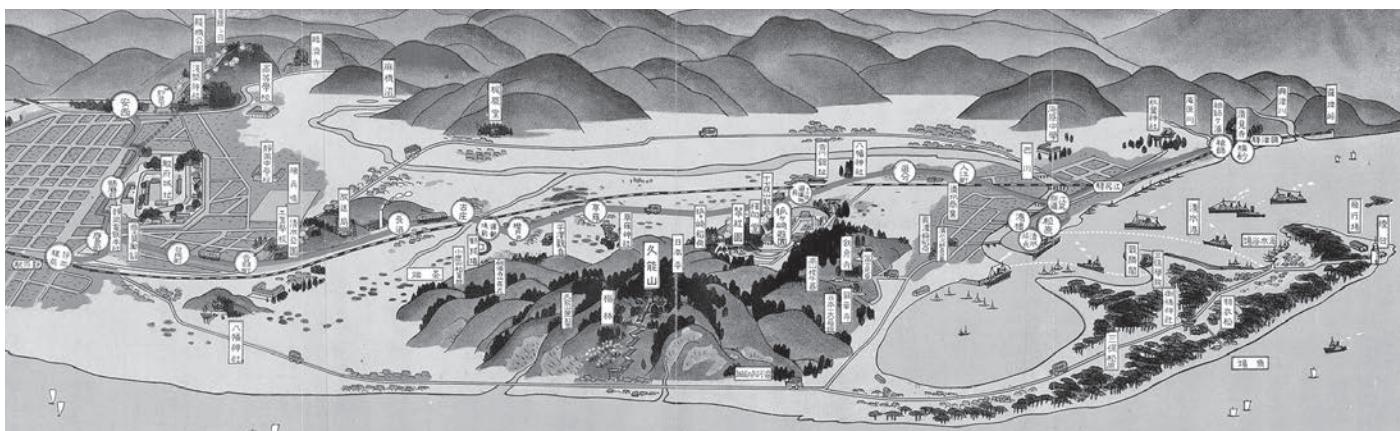
【図4】神奈川県全図

1910(明治43)年頃【資料番号266-8】／神奈川県の技術系の職員が関与して発行されたと思われる。「神奈川県」とは、武藏国の一部と相模国を管轄する役所(県庁)の名称だが、このような地図が作られることで、その管轄範囲が一つの地理的の領域として認識され、次第に地域区分の単位としての「県」が定着していく。



【図5】「京成電車御案内～東京・成田・千葉間沿線名所図」

1929(昭和4)年、金子常光作・京成電気軌道株式会社発行【資料番号1736「(観光案内7千葉県)」より】／金子常光は当時、吉田初三郎とともに人気を博した鳥瞰図絵師。京成電気軌道(現・京成電鉄)は1930(昭和5)年、東京の押上駅から京成成田駅までの区間を全通させる。本図はそれに先立ち描かれたもの。



【図6】「静岡清水遊覧案内」(部分)

1932(昭和7)年、静岡電気鉄道株式会社発行【資料番号1737「(観光案内8豊橋ほか)」より】／絵師の名として「星陵」の落款があるが、詳細は不明。静岡電気鉄道は静岡市の旧市内と現・清水区とで路面電車を、両都市間で郊外電車を運営していた。現在は後者のみ静岡鉄道の静岡清水線として存続。



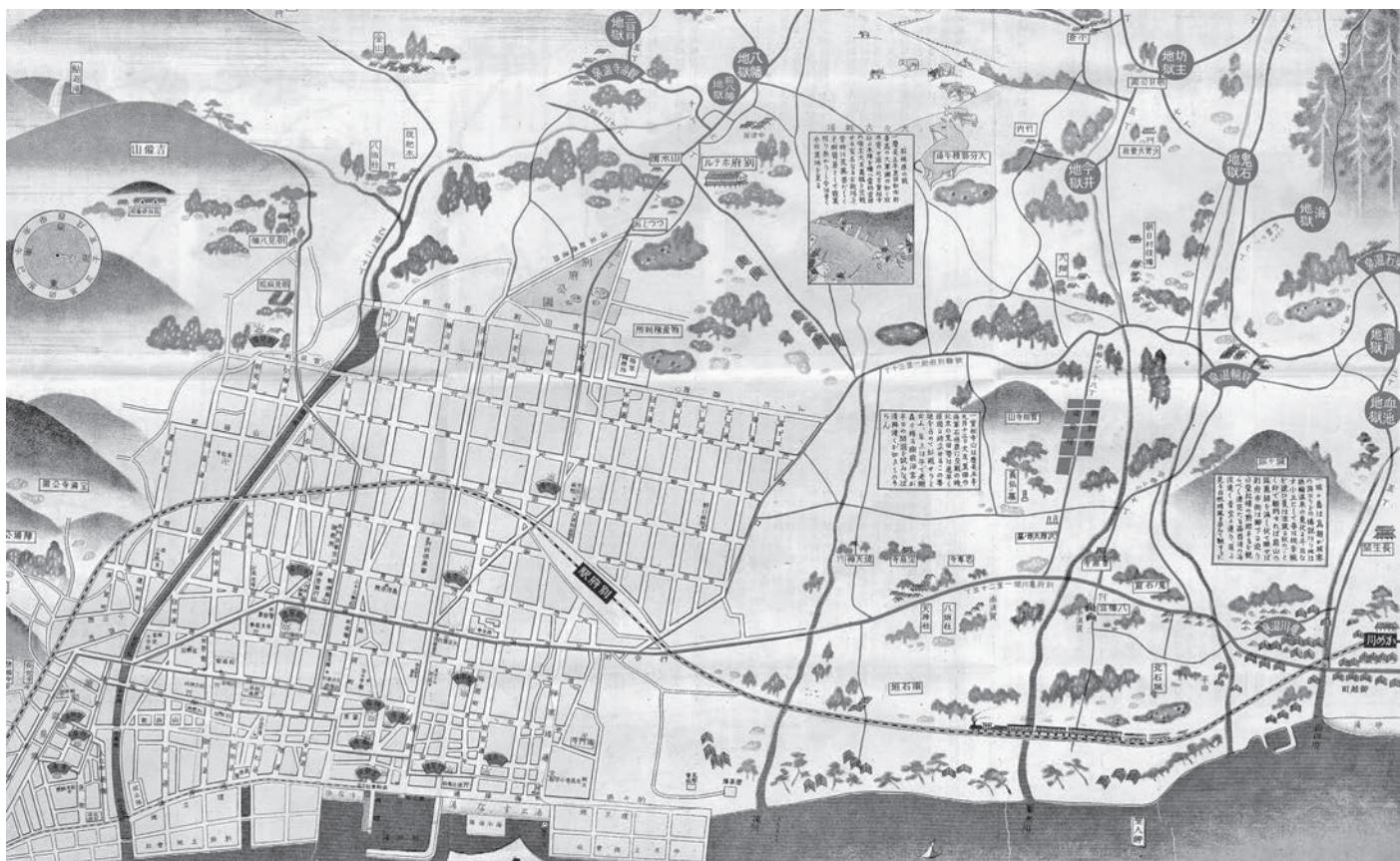
【図7】「観光地図新潟市」

1955(昭和30)年頃、新潟市発行【資料番号1730「(新潟観光案内一括)」より】／日本海に注ぐ信濃川の河口に発達した新潟の港は、1869(旧暦明治元)年に貿易港として開かれた。百貨店の集まる古町通り界隈から万代橋を渡ると、信越本線の新潟駅がある。1958(昭和33)年、図中にある「予定地」(現在地)に移転。



【図8】「神戸地形図」(部分)

1928(昭和3)年、合資会社地文社発行【資料番号1740「(観光案内11瀬戸内海ほか)」より】／神戸は横浜と並び、近代に整備された日本を代表する港湾都市だが、その地形は異なる。急峻な六甲山地が大阪湾に落ち込む海岸線に立地する神戸の市街地は、南北に狭い回廊状の平地に沿って東西に細長く発達した。



【図9】「別府温泉及附近名勝廻案内地図」

1923(大正12)年、駿々堂書店発行【資料番号1742「(観光案内15九州)」より】／別府温泉は明治時代、別府港が整備されて大阪と航路で結ばれ、大分とを結ぶ路面電車や国有鉄道の日豊本線が開通したことで行楽地として発展。源泉をめぐる「地獄めぐり」の遊覧バスは1928(昭和3)年に運行を開始する。

所蔵資料紹介

「電車停留場名並乗換呼方」

(大原康男家所蔵資料 資料番号17)

大原康男家所蔵資料は同家の先代である徳次郎の関係資料。当室では複製を収集している。大原徳次郎（一八九九～一九八六）は横浜市電気局（交通局）の教習所主任を務め、資料は同所の教材が中心である。うち「電車停留場名並乗換呼方」は、市電の車掌になるためのものであろう、車内アナウンスのマニュアルである。

以下、その例文の一部を掲載する（原文のまま。ただし、旧字を新字に改め、適宜句読点、ルビを挿入した）。

○第一系統
一、生麦発車（下りの場合）

お待ち遠様此の電車は「保土ヶ谷駅」行でございます。動きます。次は瀧坂々々でございます。皆様毎度御乗車

有難度うございます。御面遠様ですが乗車券をお截らせ頂きます。誠に御面遠様ですがどなたも乗車券を拝見致します。

（中略）
(曲線)曲りますから御注意を願います。

一、新子安

新子安でございます（省線、京浜、新子安駅あり）。お降りの方はございませんか。お降りの方は統いて願います。お待ち遠様「保土ヶ谷駅」行でございます。込み合いますから御順に中程へ

願います。動きます。次は入江橋、入江橋でございます。恐れ入りますが乗車券をお截らせ願います。少々御免下さい、乗車券をお截らせ願います（お金で御持の方は乗車券をお求め願います）。

〔中略〕

一、横浜駅前

横浜駅前でございます（バス亀甲山行、三枚町行、上市ヶ尾行、「東急」厚木行、浦賀行、渋谷行、品川行「あり」（神奈川郵便局「あり」）。毎度御乗車有難度うございます、お忘れもの無い様に願います。お降りの方は続いて願います。横浜駅、横浜駅でございます。もうお降りの方はございませんか。お待ち遠様「保土ヶ谷駅」行でございます。混み合いますから御順に中程へ願います。もう少々中程へ願います（満員になりましたから次の車まで御待ちを願います）。動きます。混み合いますからどなたも懐中物に御注意願います。恐れ入りますが乗車券をお截らせ願います。次は高島町、高島桟橋前でございます。浅間下、桜木町、尾上町方面の方はお乗換え願います。

〔後略〕

（岡田直）

乗客のいる車内の様子がわかる資料は極めて少なく、これはそれを想起することのできる、また、乗車する際の運賃の支払い方や当時の言葉遣いなどもわかる、非常にユニークな資料である。年代は記されていないが、一系統整理事業 百瀬敏夫／横浜「商業地図」の作成の試みとその考察 岡田直／横浜市史資料室の活動記録／資料を寄贈していただいた方々

《市史資料室たより》

【新刊紹介】 各600円(税込)

◆「横浜市史資料室報告書

令和六年度 横浜の女性と洋装」

〈目次〉 第1部 シリーズ展示一横浜の女性と洋装一 プロローグ 洋装のはじまり／I 「スマートな洋装」一横浜のモダンガールー1 女学生と制服 2 「職業婦人」の洋装 3 「スマートな洋装」を求めて／II 戦中・戦後の横浜の女性とファッション 1 統制される衣料品 2 統制後を支える服装 3 物資の不足と供給／III 洋裁ブームと横浜の洋装店 1 洋裁ブーム 2 横浜の洋装店とデザイナー 3 既製服の時代へ／エピローグ 神奈川県洋装組合連合会と日本洋装業発祥顕彰碑 第2部 資料一横浜の洋装風景一 I 1956春夏ファッション・ショウ／II ボンバー洋装店の資料から



【横浜市史資料室のご利用について】

横浜市史資料室は、取り寄せが必要な資料が多いため「事前予約の方優先」によるサービスの利用を案内しております。事前に電話、eメール等でご利用方法等をご相談ください。

予約なしで来室された場合、閲覧を希望される資料によっては、取り寄せの関係から別日にご案内する場合がありますので了承ください。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

◇休室日のご案内◇

毎週日曜日及び横浜市中央図書館休館日

◆「横浜市史資料室紀要 第15号」

〈目次〉 横浜市史資料室講演会「野毛界隈影刻巡礼」 木下直之／横浜貿易新報社による「在支帝国海軍將士慰問令嬢使節」派遣 上田由美／横浜市第一〇地区の震災復興土地区画整理事業 百瀬敏夫／横浜「商業地図」の作成の試みとその考察 岡田直／横浜市史資料室の活動記録／資料を寄贈していただいた方々

【寄贈資料】

1 株式会社石橋様	
石橋蒲鉾店写真(大正14年)、他	2件
2 佐溝 輝道様	
松本治郎関係資料	10件
3 保田 啓之様	
保田啓之家資料	17件